

私は、2010年9月25日～10月1日にチェコ共和国で開催されたIAC2010にJAXA派遣学生として参加致しました。本学会は自身にとって初めての国際学会への参加であり、「**国境を越えた宇宙開発の国際交流**」というテーマで参加しました。テーマの中では自身の知識と交流の2点を高める事、特に交流の点ではinputだけでなくoutputにも力を入れることを具体的な目標と致しました。

実際に私がIAC2010に参加して得た事は大きく2点あります。それは'自身の成長'と'人との出会い'でした。自身の成長では数多くのセッション、プレナリーの中で、自身の専門である衛星の姿勢制御に関してはもちろん、宇宙法・宇宙教育等の'宇宙'に関連した他分野のつながりや各国の宇宙開発・産業のあり方など多くの知識と知恵を学びました。私が特に印象に残ったのは各国の宇宙開発と産業でした。通常私達学生の立場では宇宙開発を研究・開発の対象として見る事が多くありますが、今回の学会への参加により1つの産業としての宇宙開発の側面を学ぶ事ができました。技術を発展させるだけではなく、その技術をどのように社会に還元し会社に利益を生むか、という各企業のディスカッションはビジネスという新しい視点を得ることができ、世界の宇宙産業における日本の宇宙産業を知る事ができました。またISEBでは現在NASAの最先端で活躍されている方のお話を間近で聞くことができました。講演の中では現在と今後の宇宙開発について多くの意見と経験を聴講し、特に今後の宇宙開発は君達が作っていくのだ!という言葉は何より嬉しかったです。以上のように、IACでは世界で日々変化していく宇宙開発・研究を目の当たりにし、ここでは書きつくせないほどの多くの事を学びました。そして正直'自分自身の小ささ'を思い知らされました。研究室の机の上で宇宙に関わる研究をしてきましたが、社会における宇宙開発の役割、世界の宇宙開発における今の日本の宇宙開発、宇宙開発に関わる他分野などあまりにも世界は広い事を知りました。IAC参加してそのような自身の視野を大きく広げることができ、そして今後の研究や宇宙開発に対する姿勢が変わりました。

次に'人との出会い'では本当に多くの方と出会うことが出来ました。JAXA派遣生として参加したため、特にNASA、ESA、CASの学生との交流の機会が多くあり、彼らと意見交換、そしてスポーツ大会で共に汗を流した事は忘れられない思い出です。異なる国や言葉の壁こそありましたが、宇宙に対する熱い思いは共通する部分があり交流を深めることができました。さらに、各セッションや会場内では世界の宇宙産業で活躍されている方達の討論に刺激を受け、宇宙飛行士の方にお会いして励ましの言葉を頂いた時は心が震えました。また教育イベント先の日本人学校での小学生との出会いもありました。宇宙を勉強する人(私達)を宇宙人だと言って迎えてくれた彼らから聞く宇宙に対しての疑問や考えには驚かされました。宇宙教育で宇宙を教えるのではなく、自身の専門である宇宙を通して次世代の子供達に、当時私達が感じていた'わくわく'を伝える事ができたのなら幸いです。そして最後に共に行

動したJAXA派遣生との出会いは私にとって非常に大きいものでした。特に日本の学生として、彼らと共に行動できた事は多くの刺激を受けました。このようにIACでは宇宙というキーワードを通して様々バックグラウンドを持つ方と出会う事が出来ました。私はIACで多くの事を学び知識・経験を得ましたが、これはすべて人を見てそして人と話して交流して得る事ができた経験です。これまで机の上で勉強しただけでは気付かなかった多くの事に気付かされ、そして宇宙開発に対してより深く考え向き合うようになりました。

私には'宇宙開発を通して人や社会の役に立ちたい'という将来の目標があります。今回の派遣プログラムでは得た事、経験を次につなげられるように、そしてIACで出会った方と同じラインで宇宙開発を進める一人になれるよう、研究・語学ともに力を入れたいと考えています。

最後になりましたが、派遣プログラムにおきましてサポートして下さいました広浜様、安藤様、宮川様、中村様をはじめとしたJAXAの方、また派遣学生として共に行動した仲間、そして研究の中IACに参加する事を応援して下さいました横浜国立大学上野誠也教授、IAC2010に関わったすべての方にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。ここからがまたスタートだと思い、日々この経験がより意味のあるものになるよう自分の目標に向かっていきたいと思っております。